

ふるさと納税の意義

ふるさと納税には大きな意義が3つあります。

①個人が寄附する自治体を選び、使い道も選べる。

②地域の役に立つ。

③地方自治体の競争力を高められる。

ふるさと納税という仕組みを通して本町の特産品や地域の認知度が全国的に高まりました。

特産品の多くは肉・うなぎなどの一次産業です。PRが成功したことで多額の寄附をいただくことができましたが、いただいた寄附金は未来を担う子どもを育む施策など、さまざまな事業に活用されています。



全国の1788ある自治体

が、国民に向けてそれぞれの取り組みをアピールすることで、自治体間の競争が進んでいます。選ばれるためには何が必要か、何が可能か、あらためて考えるきっかけになっており、また、本町では新たな動きが起っています。それは、ふるさと納税に参加している異業種・同業種の事業者同士の『出会い』です。

① チャレンジ精神の醸成

『出会い』により、他のふるさと納税参加事業者のさまざまな意見や取り組みが共有されはじめ、既製品見直し、魅力アップに取り組むなどのチャレンジが始まっています。

また、事業者においては商談会への参加やインターネット販売など、さらなる販路拡大へ取り組みチャレンジ精神も培われています。

② 魅力の再発見

『出会い』により、大崎町に多くの魅力的な食材があることをあらためて知ることや地元のもの積極的に仕入れるようになったり、地元食材を使った新たな特産品を開発するなど、謝礼品を通して地域の魅力を全国へ発信しています。

③ 事業者間連携

ふるさと納税の謝礼品を自社のものだけでなく、他社の商品とセットでPRしたり、他社の原料を使用した新たな商品の開発が行われています。

また、『地元の人に大崎の魅力的な食材をもっと知ってもらいたい』と、5月19日にはふるさと納税参加事業者が企画した『大崎の食をとことん楽しむ会』というイベントも開催されました。

さらに魅力あふれるまちへ

ふるさと納税を通して、全国に『大崎ファン』が生まれつつあります。寄附者からは「大崎町はこんなにおいしいものがあるんだね。今まで知らなかった。」「旅行で行ってみたい。」といったうれしい言葉をいただくこともあります。

す。

今後も、寄附者の意向に沿った寄附の使い方や地域活性化を考え、まちが秘める魅力をさらに引き出し『誇れるまち』『訪れたいまち』を実現させるため、ふるさと納税を一つのまちおこしの手段として活用していきます。



▲大崎の食をとことん楽しむ会の様子